

雑報

頭に一 土屋 志穂

法学会研究会報告記事  
(2010年4月～2011年3月)

2010年7月28日(水)  
博士前期課程2年次春学期末研究  
報告会

- 環境法における住民参加  
—環境影響評価法を中心と  
した日中比較— 王 櫻 未

2011年1月12日(水)  
修士論文報告会

- 文化多様性に関する国際法  
の成立と特徴  
—関係条約間の抵触とその  
調整を中心に— 伊東 裕子

- 環境法における住民参加  
—環境影響評価法を中心と  
した日中比較— 王 櫻 未

比較法・外国法研究会記事  
(2010年4月～2011年3月)

- 2010年4月24日(土)
- 国際投資における公正衡平  
待遇と人権に関する国際法  
規との関係  
—国際慣習法上の外国人待  
遇の最低基準の明確化を念

- 2010年5月15日(土)
- ヨーロッパにおける法統合  
の新たな展開  
—一人権保障を中心として—  
滝沢 正・洪 恵子・  
小林 真紀・西連寺隆行

- 2010年6月26日(土)
- 行政庁の人員・予算不足が  
アメリカ行政法理論に及ぼ  
す影響について 清水 昌紀

- 2010年7月24日(土)
- 最近のドイツにおける領得  
に関する一事例(空き瓶返  
却事例)の紹介 穴沢 大輔

- 2010年10月30日(土)
- 地下水をめぐる国際法の現  
状と課題 岩石 順子

- 2010年11月27日(土)
- フランスにおける「普遍的  
管轄権」について 田辺江美子

- 2010年12月18日(土)
- 外国法研究における留意点  
滝沢 正

- 2011年1月22日(土)
- 欧州人権裁判所判決のドイ  
ツの国内的効力について  
—国内に同種のケース  
(Parallelfälle)が多数存在

する場合一

佐藤 亨

として後遺障害12級相当  
と認定された事例(名古屋  
地裁平成21年11月25日  
判決、判時2071号71頁)

上原 純

### 保険法研究会記事

(2010年4月~2011年3月)

第1回 2010年6月12日(土)

判例研究

○被共済者が頭蓋内出血を発  
症し意識障害により用水路  
に転落して溺死した場合、  
外来の事故に当たるとして  
共済金の支払請求が認めら  
れた事例(仙台地裁石巻支  
部平成21年3月26日判  
決、判時2056号143頁)

福田 弥夫

第3回 2010年10月2日(土)

判例研究

○酒気帯び運転免責条項(大  
阪地裁平成21年5月18日  
判決、判タ1321号188頁)

市川 典継

○終身保険における解約返戻  
金と消費者契約法上の「重  
要事項」(京都地裁平成22  
年3月25日判決、判例集  
未登載)

遠山 聡

○生産物賠償責任保険におけ  
る免責条項の解釈(大阪高  
裁平成21年9月11日判  
決、判時2070号141頁)

甘利 公人

第4回 2010年12月11日(土)

判例研究

○労災保険法に基づく休業給  
付・障害給付を損害賠償債  
務の元本に充当した事例  
(最高裁平成22年10月15  
日判決、裁判所時報1517  
号4頁)

武田 俊裕

第2回 2010年8月7日(土) 判  
例研究

○自動車の運転者の自殺とし  
て保険会社の免責が認めら  
れた事例(名古屋高裁平成  
21年11月18日判決、判  
時2072号146頁)

牧 純一

○傷害保険の外来性と高齢者  
の浴槽内の溺死(津地裁平  
成22年3月29日判決、判  
例集未登載)

清水 太郎

○聴覚障害者の交通事故によ  
る「手話」の不自由につい  
て「言語障害」に相当する

第5回 2011年2月19日(土)

判例研究

○建物更生共済について、保

険契約者又は被共済者ではなく、第三者の故意・重過失による火災（放火疑義）につき、履行補助者の重過失が認定され免責となった事例（東京高裁平成 22 年 11 月 17 日判決、判例集未掲載） 大井 暁

留め置き行為（東京高判平成 21 年 7 月 1 日判タ 1314 号 302 頁） 長沼 範良

○判例研究 街頭募金詐欺において包括一罪が認められた事例（最決平成 22 年 3 月 17 日） 青木 陽介

○海外旅行傷害保険における虚偽申告の事例（最高裁平成 21 年 12 月 10 日判決、自保ジャーナル 1814 号 1 頁） 市川 典継

第 4 回 2010 年 6 月 2 日（水）  
○判例研究 共謀関係からの離脱が否定された事例（最決平成 21 年 6 月 30 日刑集 63 卷 5 号 475 頁） 今井 康介

## 刑事法研究会記事

（2010 年 4 月～2011 年 3 月）

○研究報告 法テラスの現状と課題 岩 瀬 徹

第 1 回 2010 年 4 月 7 日（水）  
○判例レビュー（2009 年 10 月～2010 年 3 月末までの判決）

第 5 回 2010 年 6 月 23 日（水）  
○研究報告 ドイツ刑法強盜罪と暴行後の不法領得の意思の問題 富 高 彩

第 2 回 2010 年 4 月 21 日（水）  
○研究報告 国会議員の職務権限について—過去の職務行為に対する賄賂 林 幹 人

○研究報告 特別背任と経営判断原則—拓銀事件最高裁決定（最決平成 21 年 11 月 9 日刑集 63 卷 9 号 1117 頁）を契機として 横 内 豪

○判例研究 Winny 開発者事件控訴審判決について 島田聡一郎

第 6 回 2010 年 7 月 21 日（水）  
○研究報告 臓器移植法の改正 町 野 朔

第 3 回 2010 年 5 月 19 日（水）  
○判例研究 採尿令状請求時から執行時までの対象者の

○研究報告 正当防衛要件充足行為に対する違法阻却の可否 日和田哲史

第7回 2010年10月6日(水)

穴沢 大輔

○判例レビュー (2010年4月～2010年9月末までの判決)

○判例研究 横領罪における不動産の占有について (大阪地判平成22年1月8日判タ1322号269頁) 富高 彩

第8回 2010年10月20日(水)

○判例研究 宅配便業者が運送中の荷物に対するエックス線検査 (最決平成21年9月28日刑集63巻7号868頁) 長沼 範良

第11回 2010年12月5日(水)  
○研究報告 精神障害者の入院 町野 朔

○判例研究 軽犯罪法1条2号所定の器具に当たる催涙スプレー1本を専ら防御用として隠匿携帯したことが同号にいう「正当な理由」によるものであったとされた事例 (最判平成21年3月26日刑集63巻3号265頁) 日和田哲史

○研究報告 ドイツにおける過失共同正犯論の史的展開 今井 康介

第9回 2010年11月17日(水)

○研究報告 韓国における児童虐待防止システム 横内 豪

第12回 2010年12月22日(水)  
○研究報告 注意義務と緊急避難—東京地判平成21年1月13日判タ1307号309頁を契機として 林 幹人

○判例研究 詐欺罪の新動向 (最決平成22年7月29日裁判所時報1513号1頁) 青木 陽介

○判例研究 川崎協同病院事件上告審決定 (最決平成21年12月7日刑集63巻11号1899頁) 村田菜々子

第10回 2010年11月24日(水)

○判例研究 刑罰と課徴金減免制度が交錯した一事例 (東京地判平成21年9月15日LEX/DB25451426)

上智国際法判例研究会記事  
(2010年4月～2011年3月)

2010年9月24日(金)  
○パルプミル事件—Case concerning Pulp Mills on the River Uruguay (Argentina v. Uruguay) 20 April 2010, ICJ 岡松 暁子